

## I. 一般目標 (General Instructional Objective)

感染症の診断、治療を適切に行える能力を修得するとともに、院内感染対策に必要な知識と技術を身に付ける。

## II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

- アレルギーなど他の発熱をきたしうる疾患との鑑別ができる。
- 病歴、臨床症状および徴候から判断し、感染部位の推定および感染症の鑑別疾患に役立てることができる。
  - ・呼吸器感染症 ……肺炎、肺化膿症、膿胸、インフルエンザなど
  - ・中枢神経系感染症 ……髄膜炎、脳炎など
  - ・腸管感染症 ……腸チフス、細菌性赤痢、コレラなど
  - ・尿路感染症 ……膀胱炎、腎盂腎炎など
  - ・輸入感染症 ……マラリア、デング熱など
  - ・その他 ……骨髄炎・感染性心内膜炎など
- 原因微生物を特定するための検査を修得する。
  - ・グラム染色、抗酸菌染色、ギムザ染色などの実技と判定
  - ・インフルエンザ、レジオネラ、肺炎球菌、マラリア、デングなどの抗原検査実技と判定
  - ・サイトメガロウイルスなどのPCR検査の実技と判定
- 感染症の感染経路を理解し、標準予防策と感染経路別予防策を行うことができる。
- 病態に応じた適切な抗菌薬の選択および投与法の決定ができる。

## III. 方略 (Learning Strategies)

病棟・外来でのトレーニング、学会参加(スライド作製、発表、症例報告など)、カンファレンスなど

## IV. 経験できる疾患・技術など

- ①一般、医療職および渡航に必要なワクチン選択、注意喚起
- ②不明熱の鑑別
- ③輸入感染症(デング熱・マラリア・チクングニアなど)
- ④非一般的感染症(猫ひっかき病・ブルセラ症・Q熱など)
- ⑤グラム染色をはじめとする治療・抗菌薬選択のための補助診断
- ⑥他科との共診による豊富なコンサルト
- ⑦ICTとしての活動
- ⑧抗菌薬の初期選択

## V. 評価 (Evaluation)

Minimum EPOC、症例発表による自己評価・指導医評価。  
指導医・看護師などによる形成的評価。

## VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 渡邊 浩
2. 指導責任者 渡邊 浩
3. 指導医 後藤 憲志、多々良 一彰
4. 研修施設 久留米大学病院

## VII. 週間予定

- 月: AM 外来研修  
PM コンサルテーション対応
- 火: AM 外来研修  
PM ICTラウンド、症例検討/回診
- 水: AM 外来研修  
PM 外来研修/コンサルテーション対応
- 木: AM 外来研修  
PM 外来研修/コンサルテーション対応
- 金: AM コンサルテーション対応  
PM 症例検討/回診
- 土: AM コンサルテーション対応

